

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化）

担当課：国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道168号 川津道路	事業区分	一般国道	事業主体	奈良県
起終点	奈良県吉野郡十津川村川津 奈良県吉野郡十津川村上野地	延長	3.2 km		
<p>事業概要</p> <p>地域高規格道路五條新宮道路は、紀伊半島を縦断し高規格幹線道路ネットワークを補完する幹線道路であるとともに、五條市と新宮市の地域集積圏間の関係強化・相互交流の増進を図るための道路である。</p> <p>現道の状況により特に幅員が狭くすれ違いが困難であることや、崩土落石の危険性の高い箇所から順次事業を実施しており、現在、十津川道路や宇宮原BP等で事業を実施している。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>川津道路は、国道168号の幅員狭小、線形不良及び異常気象時の通行規制の解消と五條吉野地域の活性化への寄与、観光・林業の振興の支援を目的としている。</p> <p>本道路の現道部分は幅員が狭隘で道路の屈曲部や崩土落石の危険箇所が多いため早期な事業着手が必要。</p>					
全体事業費	65 億円	計画交通量	4,010台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

二次、三次救急医療施設から遠く離れた本村にとっては、道路整備の遅れは生命に関わる深刻な問題であり、住民は常に不安を抱えた生活を余儀なくされている状況にあります。

今後とも、本道路の整備を推進し、地域の発展と、住民が安心して暮らせる社会基盤としての道路を計画的に進めていくことを願っています

事業採択の前提条件

便益が費用を上回っている。
円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用: 56億円 事業費: 54億円 維持管理費: 3億円	総便益: 77億円 走行時間短縮便益: 68億円 走行費用減少便益: 9億円 交通事故減少便益: 0億円	基準年: 平成16年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5 (交通量+10%)	B/C=1.2 (交通量-10%)		
		事業費変動	B/C=1.3 (事業費+10%)	B/C=1.5 (事業費-10%)		
	事業期間変動	B/C=1.4 (事業期間+1年)	B/C=1.4 (事業期間-1年)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない		
		事故対策		未改良区間や屈曲部の解消により視距が改善されることから大幅に事故の減少が図られる。 【交通及び道路の現況】 ・平成15年死傷事故件数: 5件 ・未改良区間延長: 1.7km ・屈曲部(R 30m): 7箇所		
		歩行空間		バイパス区間については、現道の自動車交通量が大幅に減少するため、歩行者の安全確保が可能		
	社会全体への影響	住民生活		通行止時に孤立化する集落を解消		
		地域経済		道路延長の短縮(4.3km→3.2km)、未改良区間(1.7km)の解消により出荷時間が短縮されるため、本地域の主要産業である林業に貢献		
		災害		バイパス区間については代替機能が確保されるとともに、トンネルや橋梁により土砂災害に強い構造となる。		
環境		-	注目すべき影響はない			
地域社会		16年7月に登録された世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」大峰奥駆道への主要なアクセスルートであり、屈曲部や未改良区間の解消によりアクセス性が向上。				
事業実施環境		十津川村が9年3月に策定した「十津川村総合計画」の中で、「村の産業や生活を支える国道168号は未改良区間が多く、緊急医療に支障が生じていることから五條新宮道路の早期完成を関係機関に強く要望していく。」としている。また地元住民からの強い反対等はない				

採択の理由

- ・国道168号は本地域にとって唯一の幹線道路であるにもかかわらず、幅員が狭小で視距も悪く、たびたび崩土が発生するなど通行に支障を来しており、住民生活や地域経済への影響が大きいことからその整備は急務である。
- ・紀伊半島を縦断し、京奈和自動車道等の高規格幹線道路を補完する地域高規格道路であり、「なら・半日交通圏道路網構想」実現のための根幹的の道路として位置づけられた路線であることから、その実現のため着実に整備を進めていく必要がある。
- ・以上のことから本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。